

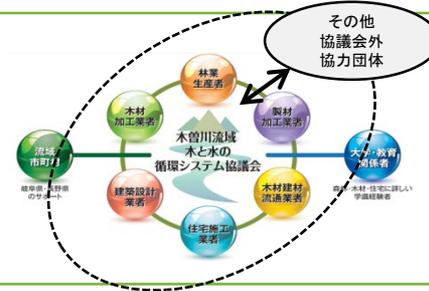
# 顔の見える木材での快適空間づくり事業

## 事業実施主体

木曽川流域木と水の循環システム協議会

## 実施体制・連携グループ

- 本協議会では川上から川下までの相互連携体制が確立
- 有馬孝禮東京大学名誉教授を代表理事として、流域の木材生産・加工・流通・住宅建築に関わる企業、学識経験者及び流域の地方公共団体など約90社が参画し、連携して事業を行う
- 愛知県・岐阜県・長野県をはじめとした地方自治体によるサポート



## 事業内容(利用拡大に向けた具体的な実施項目)

### 【事業内容】

- 【1】木曽川流域感謝祭、およびその他イベントにおける流域材商品の提案**  
 ・木曽川流域のA材丸太および大径材を活用した商品を、非住宅物件の内装木質化・外構木質化といった付加価値の高い形で商品化し、エンドユーザー・プロユーザー・地方自治体に対して提案・PRすることを目的に、イベントを実施
- 【2】ウェルネス効果を高める「木質空間」の提案展示**  
 ・イベントの中で、仮設の実大の木質空間を製作し、実際に体感することを通じ非住宅物件の木質化の提案を行っていく。  
 ・木曽川流域商品と「木の効果」のエビデンスデータの組み合わせをコーディネートして提案することで、木質化の効果・メリットをイメージしやすくする。
- 【3】都市部の外構部材インスタレーション提案展示**  
 ・木曽川流域材の品質の安定した外構木材(耐久性の優れた赤身材を防蟻処理(AQ1種)を実施)をよりPR性の高い利用法・表現方法で活用することで、その性能の説明と使用方法の提案につなげていく。

## 【テーマ】 付加価値の高い木曽川流域材を活用した非住宅の内装木質化・外構木質化の提案

### 背景と目的

#### 【背景】

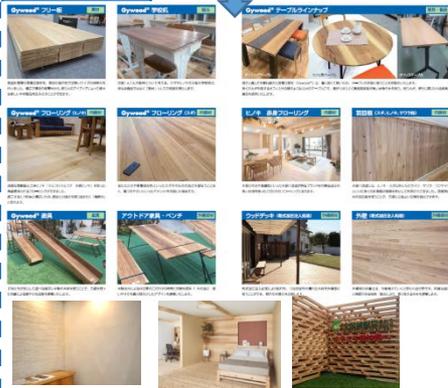
- ・木曽川流域の森林が抱える課題として人工林の高齢級化、すなわち大径化の進行
- ・大径材の活用には、A材丸太の需要創造(量的活用)と高付加価値化の推進が必要
- ・本協議会では、信頼のブランド「木曽川流域材」としてJAS制度にのっとった品質の高い構造材の供給体制の構築、普及に取り組んできており、一定の効果があった。
- ・今後、構造材だけでなく、一般ユーザーに選択権のある内装材、外構材、家具など目に見える箇所での木質化の普及が課題

#### 【目的】

- ・特に量の使用・公共性が高く多くの人の目に触れることからPR性も高いことを期待できる非住宅物件に対する木質化を薦めるための提案を、商品単体だけではなくイベント等で木曽川流域材商品をコーディネートした木質空間を表現し展示することで提案していく。

## 対象とするA材丸太を原材料とする付加価値の高い木材製品

### 写真・図等



木曽川流域商品を活用して  
非住宅の内装木質化・外構  
木質化をコーディネート

非住宅物件の用途に合わせた  
「木質空間」の提案

- ・木曽川流域産地ブランド(東濃ヒノキや木曽ヒノキ等)の内装材
- ・ヒノキ木粉・オイルを配合した漆喰  
(A材のカスケード利用)
- ・表層圧密テクノロジー「Gywood®」を活用した高付加価値な家具・遊具・備品など
- ・赤身材に乾式注入防腐・防蟻処理(AQ1種)した外構部材

## スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

検討会開催

イベント準備(展示品・チラシの作成)

イベント開催

報告書の作成